



生産者の皆さまへ

米の生産調整は 今後も継続します

平成30年産以降も**主食用米の生産調整は必要**です。

全国の主食用米の**消費量は毎年約8万t減少**しています。
生産量も需要に合わせて調整していかなくては、
米価が大幅に下落し、**農業所得の減少が想定**されます。

行政による生産数量目標の配分はなくなりますが、
今後も**地域農業再生協議会別の「生産量の目安」として**
需要に応じた生産量の目安をお知らせして参ります。



三重県農業再生協議会

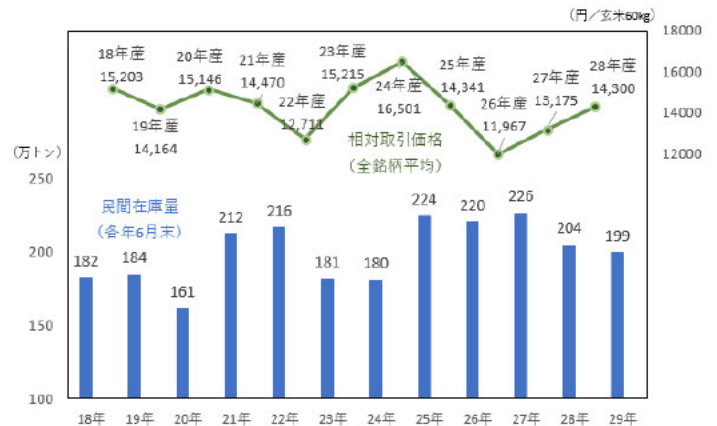
生産者の皆さまへ

30年産以降も、 需要に応じた生産をお願いします！

在庫量が多いと米価は下がる傾向に！

平成18年以降の民間在庫量と相対取引価格との関係を示した右表では、民間在庫が**200万tを超える**と**相対取引価格が低下**する傾向があります。

米価維持のためには、引き続き需要に応じた生産が必要です。



経営所得安定対策は継続します！

平成30年産以降も農業者の経営の安定に資する政策は継続されていきます。

- ◇水田活用の直接支払交付金【**戦略作物助成や産地交付金**】は**継続**します。
- ◇畑作物の直接支払交付金【**ゲタ対策**】は**継続**します。
- ◇米・畑作物の収入減少影響緩和対策補てん金【**ナラシ対策**】は**継続**します

※米の直接支払交付金は30年産から廃止されます

生産数量の目安や需給に関する情報を提供していきます！

国は30年産以降も、引き続き全国ベースの需給見通しを提示するとともに、地域ごとの作付意向や作付状況、価格動向、産地銘柄別の需要量等を公表するなど、地域が需要に応じた生産に取り組めるよう引き続き支援します。

三重県農業再生協議会では、全国の需給状況に基づいて「**生産量の目安**」を作成し、地域農業再生協議会ごとに「**生産量の目安**」を提供します。

